

# リポーターだより No.6

## 子ども達のサポート役 少年少女発明クラブ

リポーター  
**寫内敏夫**さん  
としお  
 (中神明町)

世の中、ぱっとしないこの時期  
 十月三日の北鹿新聞・大館新報に  
 学童生徒間で注目される「大館少  
 年少女発明クラブ」のニュースが  
 五段抜きの大文字で報じられた。

およそ市民の方々はご存じのこ  
 とと思うが、「大館少年少女発明  
 クラブ」は全日本学生児童発明く  
 ふう展で、過去六年間に三度、最  
 優秀作品に与えられる「恩賜記念  
 賞」を受賞した実績を持っている。

この度、大館クラブの実情を見  
 聞し、実効ある方策を得るべく、  
 愛知県・刈谷市の発明クラブ会長  
 さんと教育長、同教育課長の三氏  
 が、大館発明クラブの活動拠点で  
 ある郷土博物館を訪問された。

古い話になるが、昭和四十九年  
 (社)発明協会が創立七十周年記  
 念事業の一環として「少年少女発  
 明クラブ」の設置を推進した。

大館もその機運に乗じて大館市、  
 大館商工会議所、業界の人々、そ  
 れに発明協会県支部・大館分会の  
 協力を得て、企画運営委員会を組  
 織。組織されたクラブの事務局員  
 が最初に見学場所を選定したのが、  
 刈谷市の財団法人豊田理化学研究  
 所内にある発明クラブであった。

このような関係にある刈谷市の  
 かたのご訪問を歓迎して、戸田範  
 一会長、乳井省衛事務局長ら関係  
 者四人が応対し、助言というより  
 も情報交換を行い、親密な話し合  
 いに終始した。

刈谷市といえば、日本はおろか  
 世界の自動車メーカーの発祥地。  
 少年少女発明クラブに懸ける意気  
 込みも強く、国内で一番早く結成  
 されて、会員は児童、生徒数一千  
 六百人余りと国内最大規模。市外  
 会員も多く在籍している。

当日の話の中で、乳井事務局長

### 全日本学生児童 発明くふう展の受賞

- 平成九年 恩賜記念賞  
 「月のかんさつき」  
 今井 正人さん
- 平成七年 恩賜記念賞  
 「日時計と太陽高度測定器」  
 戸館由里子さん
- 平成五年恩賜記念賞  
 「地震と津波」  
 加茂谷沙織さん



は、「私たちはいつたいどういう  
 つもりで発明クラブの子どもたち  
 を育てればよいのか? 基本的に  
 『博士』を作ることではない。子  
 どもたちと交わっている中で、目  
 には見えない潜在的な能力を開発

するとところに尽きるように思う。」  
 と問いかけた。

これに対して刈谷発明クラブの  
 かたが、たった一つの例だが、と  
 して話された。学校に行けば「お  
 客さん」という生徒さんがいる。  
 ある日その生徒さんが、ちよつと  
 した工作品を発明くふう展に出し  
 て、総理大臣賞をもらったそうで  
 す。

その生徒さんが、そのときから  
 生まれ変わったように、生きがい  
 を感じて猛烈に頑張りだし、学習  
 にも目を見張るような好結果を生  
 んだ。まさに潜在能力が発達され  
 た好例かも知れない、という。

市内、有浦小学校では夏休み中  
 の課題として、自由研究または発  
 明くふうを取り上げ、集まった作  
 品を全校児童が集まるフリールー

